

## 第6回 JR肥薩線検討会議

令和5年2月13日(火)  
9:45～10:30  
ホテル熊本テルサ 3階 たい樹

### 議事次第

#### 1. 開会

#### 2. 議事

- (1) これまでのJR肥薩線検討会議を受けたJR九州の  
考えについて
- (2) その他

#### 3. 閉会

# J R 肥薩線検討会議構成員名簿

(順不同、敬称略)

## 【構成員】

たじま とおる  
田嶋 徹

熊本県 副知事

きしたに かつみ  
岸谷 克己

国土交通省大臣官房技術審議官(鉄道)

もりと よしたか  
森戸 義貴

国土交通省九州地方整備局長

よしなが たかひろ  
吉永 隆博

国土交通省九州運輸局長

まつした たくま  
松下 琢磨

九州旅客鉄道株式会社

取締役常務執行役員 総合企画本部長

## 【事務局】

国土交通省鉄道局、熊本県企画振興部

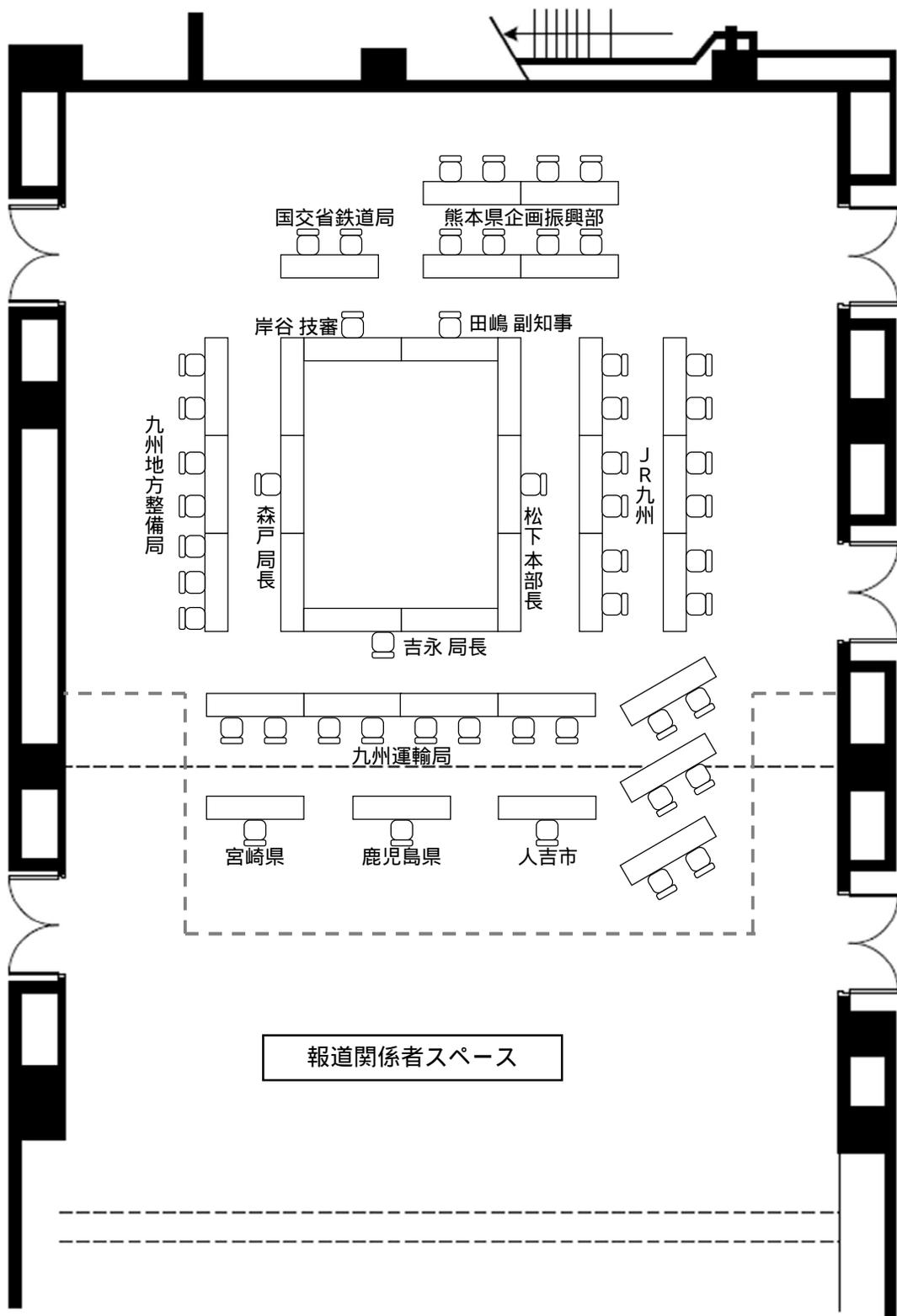
(令和6年2月時点)

# 第6回JR肥薩線検討会議 配席図

日時：令和6年2月13日(火)

9：45～10：30

場所：ホテル熊本テルサ たい樹



: マイク(有線)      : マイク(無線)

2024年2月13日

## これまでのJR肥薩線検討会議を受けたJR九州の考え

第5回JR肥薩線検討会議におきまして、熊本県より「JR肥薩線復興方針（案）」（以下、「復興方針（案）」という。）をご提示いただきました。また、肥薩線の復旧費は国の事業間連携により大幅に圧縮される見込みであり、肥薩線の復旧に対する関係の皆さまのご尽力に感謝申し上げます。

こうした経緯を重く受け止め、肥薩線のこれまでの状況を踏まえた上で、今後の議論を進めるために当社が必要と考える内容は以下のとおりです。

## ○ 復興方針（案）について

復興方針（案）では、地域の目指す姿として『「清流球磨川」と「百年レイル肥薩線」という2つの「線」を活かし、観光を軸とした日本一の地方創生モデルを実現する』と掲げ、観光振興を大きな柱として、観光需要を積極的に取り込んでいくことが示されています。また、鉄道の日常利用につながる地域づくりを目指すとされています。

鉄道は、観光振興だけでなく、通勤・通学など地域の生活を支える重要な交通であり、持続可能性を高めるためには沿線の方々の日常利用も不可欠です。観光需要には波があることも考慮し、「観光による振興」だけでなく、「沿線の方々の肥薩線に対するマイレール意識の醸成による日常利用の創出」を2本の柱として考える必要があります。そのために私どもが持つ知見の提供など、できる協力はさせていただきたいと考えています。

また、仮に復興方針（案）のとおり復旧する場合は、復興方針（案）に記載された利活用策については、運行再開前に実行されている、あるいは実行できる状態になることが不可欠です。さらに、復旧後の運行のあり方や数値目標の管理と結果への対応等について整理する必要があります。

以上